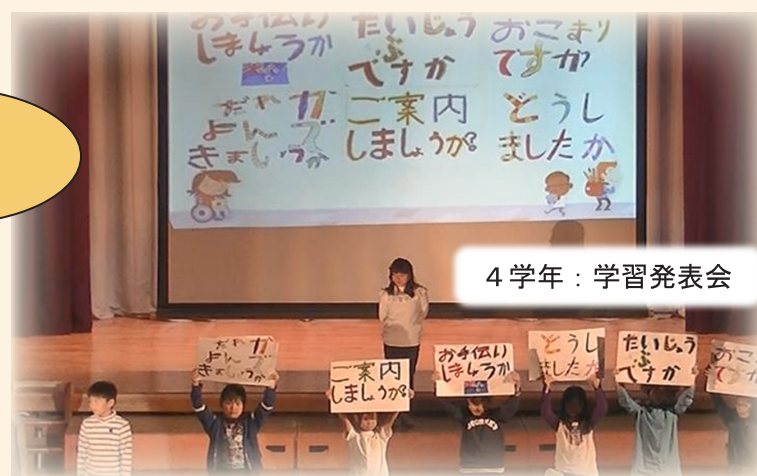
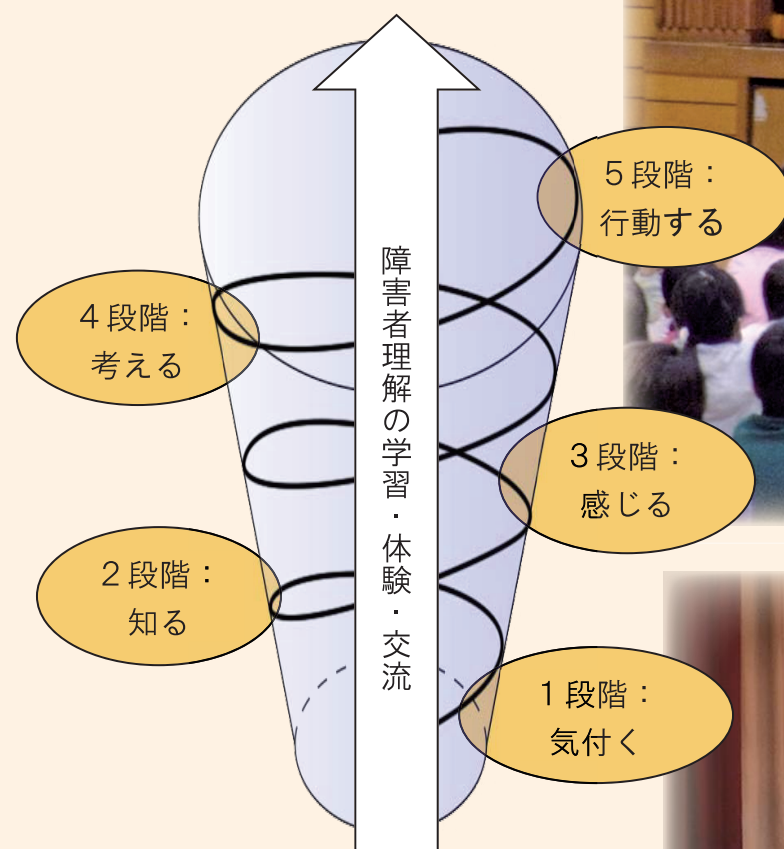


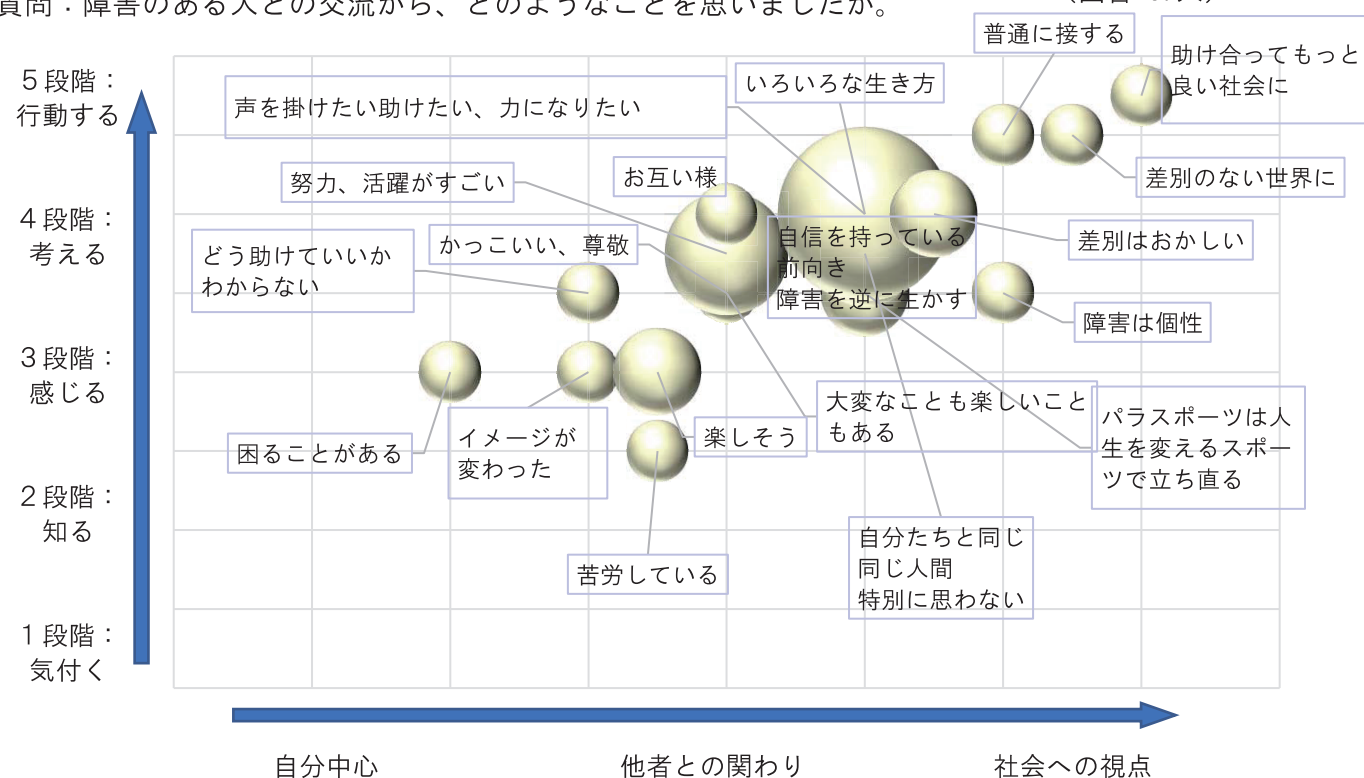
本校で考えた障害者理解の段階



児童へのアンケートから【第6学年】

質問：障害のある人との交流から、どのようなことを思いましたか。

(回答 37人)



令和元・2年度東京都調布市教育委員会研究推進校

令和2年度東京都教育委員会オリンピック・パラリンピック教育文化プログラム・学校連携事業指定校

令和2年度独立行政法人国立特別支援教育総合研究所研究協力機関

平成30年度・令和元年度東京都教育委員会パラスポーツ競技応援校



多様性を尊重し、互いを認め合える児童の育成

～オリンピック・パラリンピック教育を通した障害者理解を軸として～



東京都調布市教育委員会 教育長 大和田 正治

この度、調布市立飛田給小学校は、令和元・2年度調布市教育委員会研究推進校として、「多様性を尊重し、互いを認め合える児童の育成～オリンピック・パラリンピック教育を通した障害者理解を軸として～」を研究主題として、研究を進めてられました。

研究においては、障害者理解に資する全体計画を作成し、カリキュラム・マネジメントの実現を図ってきました。また、単元や場面設定の工夫、教室環境の整備など、指導方法等の工夫についても研究を進めてられました。本研究の成果が、市内はもとより、多くの学校において、共生社会に向けた学校教育の取組の一助となることを願っております。

東京都調布市立飛田給小学校 校長 山中 ともえ

本校では、「共生社会の形成」を目指すためには、配慮の必要な人に対する支援の充実だけではなく、全ての人が障害についての理解を深め、そこから「多様性の尊重」へと段階を踏むことが必要なのではないかと考え、2年間校内研究を進めました。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の会場に隣接した地域である立地条件を生かした活動にも取り組みながら、児童の心の育成を図ってまいりました。

この研究の重要性は誰しも理解するところではありますが、学校全体の研究として取り組むには困難さもありました。しかし、本校の教職員一同模索しながら取り組み、まとめることができました。この研究が、「共生社会」の実現を目指し、未来を担う児童生徒の育成のための今後の取組の参考にしていただければ幸いです。